

東葛西小学校

五十田昇平

制作主旨

江戸川区南部の再開発事業によって、東葛西では人口が急増している。それに伴い、最近までの少子化による統廃合とは逆行するかたちで、新たに小学校が計画されている。

教育施設は現在、様々な問題を抱えており、小学校施設も新たな提案が望まれている。それは人口の急激な減少による施設の統廃合の問題であったり、地域に開かれる教育施設と管理の問題であったりする。この計画では、この新設小学校を複合化という手法をとって、地域住民の活動拠点となる小学校を目指して再計画したものである。

元の東葛西小学校の計画に必要とされたプログラムを満たし、更に学校と地域の中間領域として交番や郵便局、小児科等の地域施設の複合化を行った。1階部分は、グラウンドを中心とした学校ゾーンと道路やモール側の地域ゾーンが、時間によって変化するシステムを提案した。学校ゾーンと地域ゾーンの間には、学年の枠を越えて社会と接して学習を行う生徒の領域を設定し、開かれた授業と管理面を考慮し、境界となる壁を設けた。生徒の生活空間となる教室は、2階部分に住街区のように配置計画を行い、様々な授業形態が可能なプランを提案した。

開かれた小学校に向けて歩む道の一つの可能性となることを望む。

講師評：高宮真介

都心の小学校は少子化とアーバン・スプロール化の波を受け、すべてのエリアで統廃合が進んでいるわけではなく、この作品の東葛西では、新興住宅開発によって学校不足が深刻化している。そういう地域ではコミュニティのつながりが希薄で、時間が育んできた地縁みないものがない場合が多い。しかし、浦安市の例でも言われているように、学校や図書館といった教育施設が地域コミュニティの核になることは十分に考えられる。

この作品はその部分に着目し、小学校に地域のコミュニティ施設を合築している。地域の人たちが学校に足を運ぶということは、学校と社会の紐帯を強め、地域におけるコミュニティの活性化につながる。また、池田小学校の事件を考えると、社会の目が常に小学校にあるということも非常に大切であるともいえる。この提案はそういう意味で評価されていい作品である。

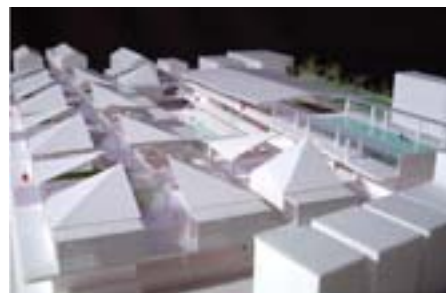
しかし社会に開かれた小学校ということは、逆に誰でも学校にアクセスできることになり、セキュリティから考えると矛盾が生じてしまう。それを何とか解決しようと、動線の処理にずいぶん苦心の跡が見られるが、肝心の小学校の計画にもう少し工夫がほしかった。



配置



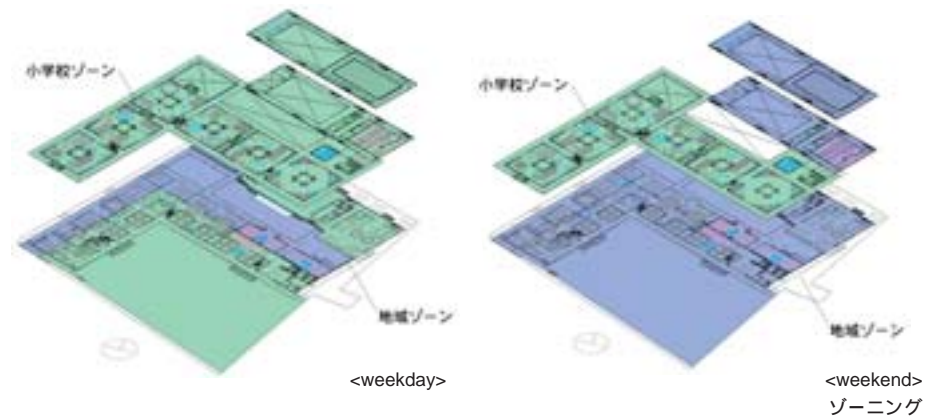
南側



屋根

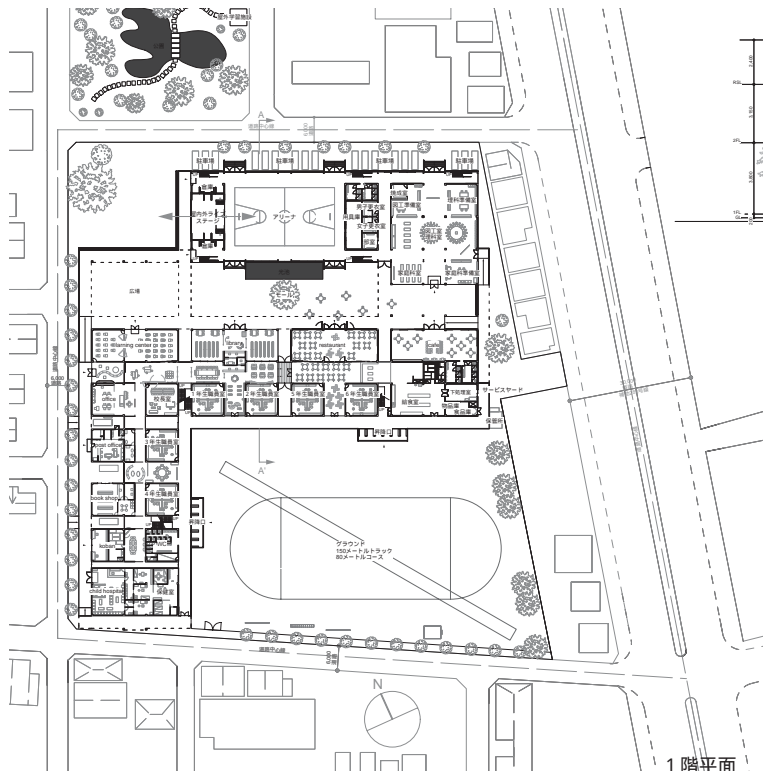


図書館から境界越しに見える授業風景

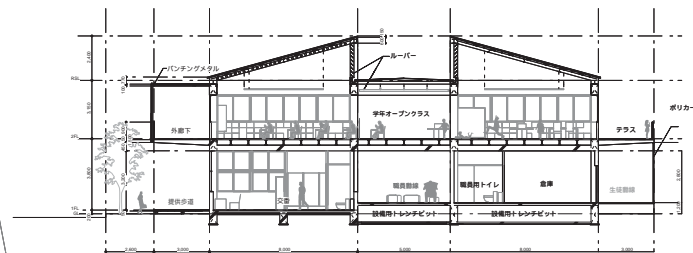


<weekday>

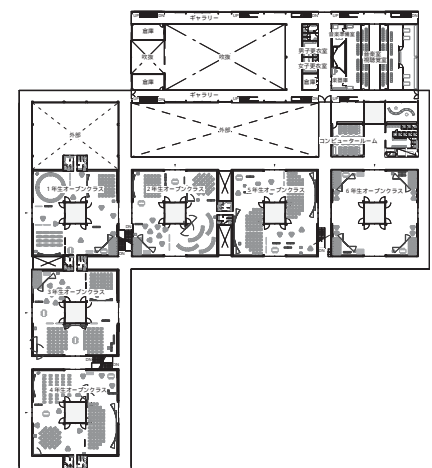
<weekend>
ゾーニング



1階平面



断面



2階平面



コンプレックス



オープンスペース



マテリアル